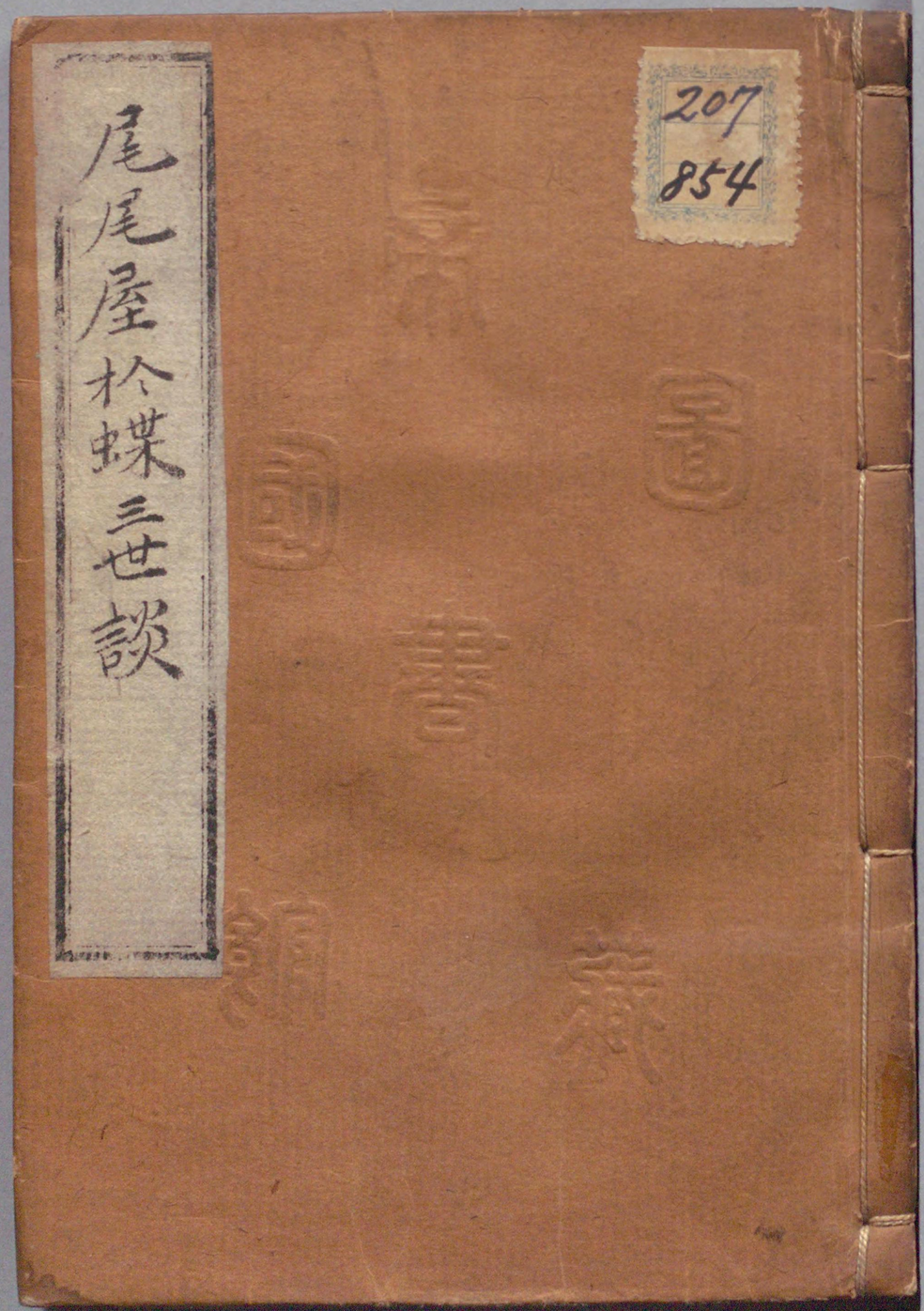

尾尾屋於蝶三世談

207
854

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

207
854

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

西両国廣小路定席二而正月二日ガ
年中長物語落はなし披講之圖
林屋正藏
惣連中
伏
江戸元祖
仕掛怪談

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854
ガラス使用

今出川愛妾 繒絹

飛梅や

勝善の近習

桂岸之亟

神乃妻 守武

今出川勝善殿

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854
ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

○佛説に人死して四十九日の間ハ魂宇宙にまよひて香の烟をくらひ清き水を好む故にそなへる香を食香と唱ふ中陰をとる時ハ魂人の胎内にやどるといへり賈るか営ミ悪が一念緒績に

うらミをとるさんといひし 最初の てん満宮 本町の町人

信濃屋半右衛門といふ仲買の女房お石が後に妊娠して当る十月に至り男子安産しければ親の悦び限りなく一人子のことなれば蝶よ花よといつくしみそだてける

是より後半次郎成長して二十年たち〱のものがたり

文政八年乙酉春新鐫目録

還魂紙料 二冊出板 柳亭種彦随筆 古画古図入

此書和漢の正史に載る事を論ぜず只ふるき図字冊子俳諧の書等を引用して或ハ遊女の小唄或ハかぶき役者の肖像百年前に名ある逸人の類の事を矣ぜずまづ其一二をいへば小野のお通より浄瑠璃の始り絵双六のもとめ浄土双六の古図放家御茶碗のあそび千年飴菱川が画水木辰之助の肖像同人が京師にある狂言の絵本など還魂紙といふべき反古のさいはひあつめて得りしを集て考へを附たれが雅客の見るべき書にハあらねど一時の眠ハ覚しつべし

本朝婦女水滸傳 中本三冊 後編嗣出 十返舎一九作 歌川豊重画

今昔正本物語 柳亭種彦 歌川国貞 画

正本ぞうしその絵草紙ハ中なるつゞりて出板ハ狂言にて百年前のかぶきを見るがごとし

美艶仙女香 はなかの薬 一包代六十四銅 …… 坂本氏製

賣弘所 江戸南伝馬町 …

紫玉膚 方

江戸馬喰町 永壽堂 西村屋與八

国立国会図書館　　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

林屋正藏作

歌川國貞画

前世ハ桂岸之丞
現世ハ信徳之達人

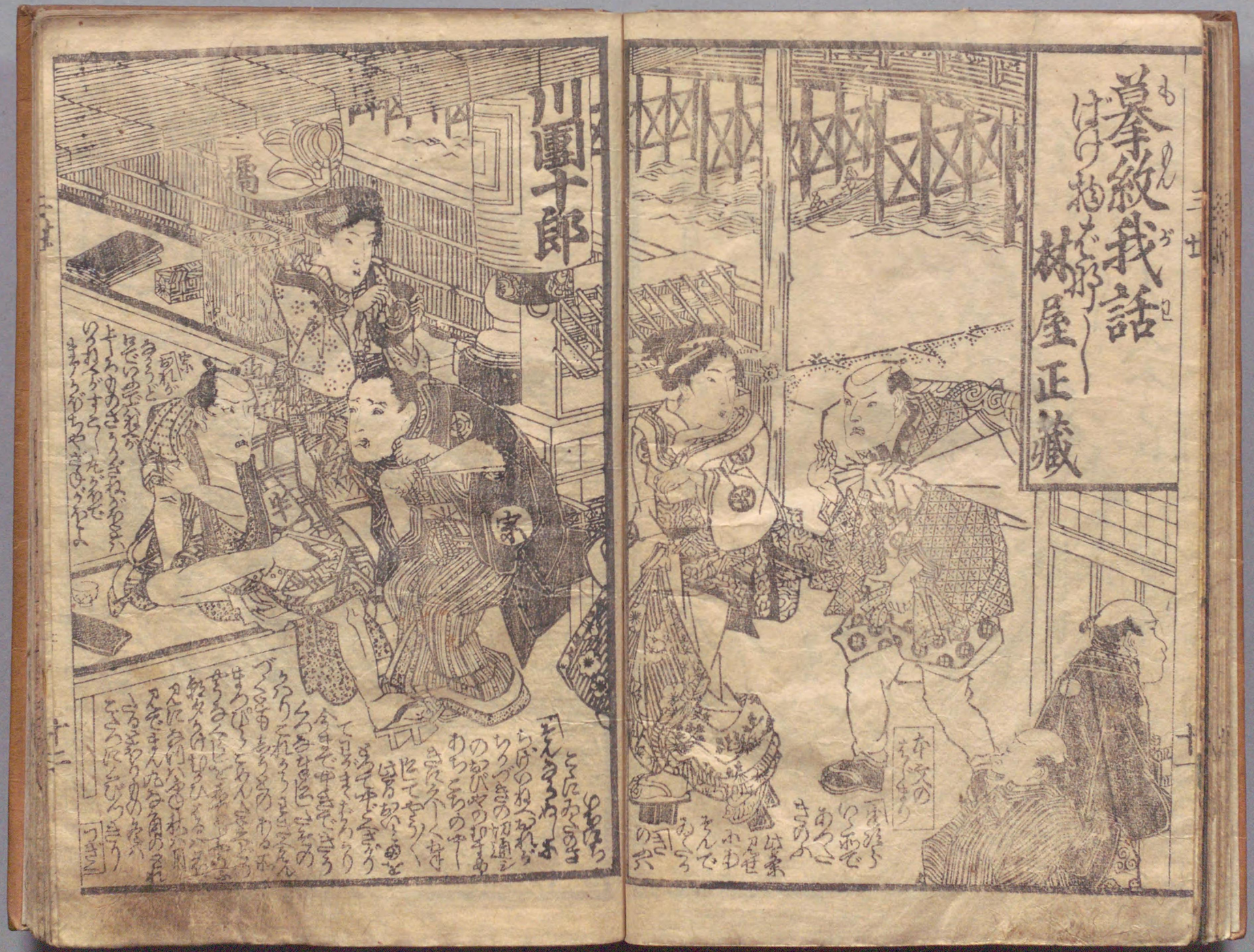
おがひ大和蝶三世談

乙酉正月發販

板元 永壽堂

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用



国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

207
854

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

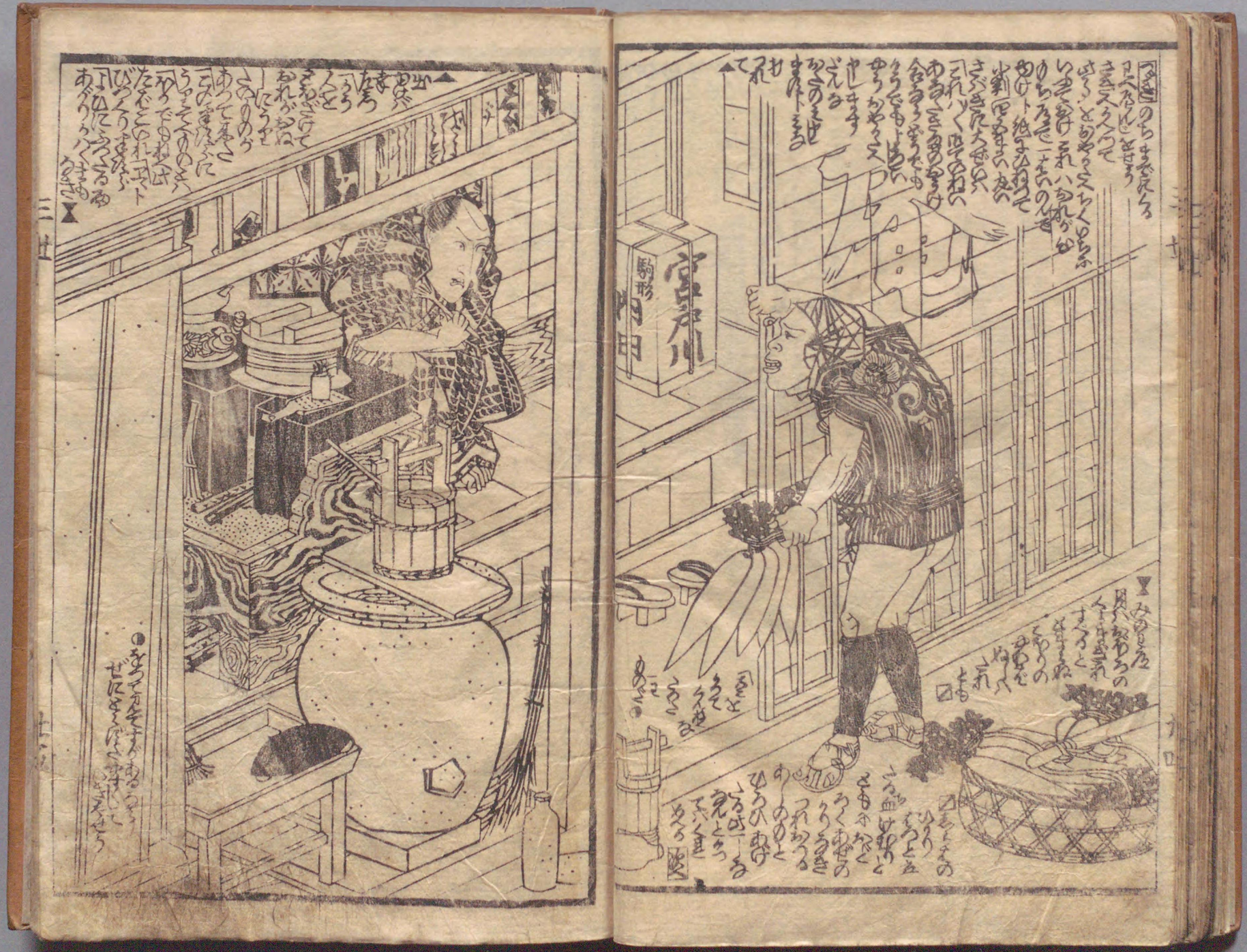
ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用



国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

「つぎ」今ハむかしのよのくにてそうのゝとまつどそうむうちのみをもやくうつこもこゞろうくうしそのときにのくまつ人のオのりなハ一つもれられどもせんぐそまにき

中▲

これせんのまつりごとをおこなうにハ

世のうつりてくもかとにそうせうせきうがせんとてかりものゝあらんくとうねそ

出家こんせのゝねがひもわれバうさおにてのそうそ

あのさびをりなれバそこをわまりのくゐる山林

ゆうそこにさびねの家のくさまくら

世まわるもにもめかそもうら山ゝとも

なのハぬまゝきやこゝのゝめのうち

ゑよのこをてわとうちの常の通ぢさの世のハ

今ちてよわるまたいお世のいんこのめぐり巻そ

こんわてまる後さおとうつゆ二ハ

図これそうそうの人今判をおくうとする委任のかを

いぐ」てはじめのそうれきうんとのくこう

幸をまう森のちゆきまうさらいかつ

まぶうゆくこゝきやどみくんぐ

外へするそのおまさゆんかんぐ

まるうれそのおまさゆんかんぐ

むろうろくさん余すりしも世ふ

あうぐまこ水天さまのはなゆく

のあとにうこんじて今ふ名かよ

五ふりそちとりわたそのかえ

今判をへちんてのとへくほが

そちがお生出家の巫へおそうりのは

のでやへこゝ俗ようきゝはこうそれ

さく生俗ハ後今三ぐイヤかぐハ

今ハれんぶうのうのしは

ざそうよや幸されるおもうらこと

ぐこをとうへくさゝあばそちが

今ハ国なぶこそもうもようてもよあ

とおかんんさてもやくといきそちら

あうこをきてのそぎけり

○今判なのかく

皆とあつわひそうさあ

かる巫さゝ俗国なさ

さうあそぐぶんなさ

まの通るにゃとれい

今お川とのきてくうし

ゆうやうのけ世よるそもぐ人のスもやうりてヲをそきそ仁そそくさそ仏のつげのそのまうよ国さわくこれバはりうる手ハいろくをハ仰とトされてさすがのうろりのやうろくをれ一きこそろくく手ハもちろ兵生ハうとぶこそくんぐそれなのちろハそうもやまるうりとそのやうのお世ハヨぶヲのそ権氏ヲの世とのひけるジ名ものくうぎうこ死うそエハ赤のまかぐさうよりんぐのほれバりハそのかそ柱とのよりんぐをろされハホんナまのち十八てり土十うさゝそれバこれ廿二氏教をあ子れバまるち写子のうぐとうそのりうぐ名のまの字ハヲバとようこのうひもヲ子のぐハこれ悦今ふさらのうよまそお世のめくうせうめて兵人ようぶすへ廿附うスそのうよふぐきうハクるひぐうのるりのれバれうよまつまるそをうこれうもそちぐヲよつぐるたハとトのよ

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

五渡亭 國貞画

江戸落咄の作者 林屋正藏作

○書林永壽堂新刻目録 江戸馬喰町二丁目角 西村屋與八

今様櫛箍雛形 前北齋爲一先生画 中本全三冊

百橋一覽 右同画 一枚摺

壽百人一首操鑑 女用文章 中本一冊

即考百籤 中本一冊

懷中寺子節用集 小本一冊

日光道中里程便覽 一枚摺

早操自在日光道中記 一枚摺

初心手學抄 蓮池堂先生書 大字手本尚 大本一冊

諸民通用手紙之文言 中本一冊

御家流手紙之文言後集 蓮池堂先生書 中本一冊

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

鎮火用心集 小本一冊

古刀鑒定口訣 中本一冊

庭訓往來画抄解 西方寺付 太本一冊

蓮池堂手翰 大字名本尚 折本一帖

早割塵劫記大成 横袋懐中本

画本虫蝨撰 彩色摺 粧歌入 全二冊

狂歌關東百題集 全二冊

同 五十人一首 彩色入 全一冊

同 扶桑集 全二冊

同 江戸砂子 全二冊

八百萬神誓言 縁結家定紋 六冊 曲亭馬琴作 歌川國貞画

牽牛織女願絲竹 六冊 曲亭馬琴作 歌川豊國画

尾上伊太八 弓岩藤 帰咲古郷錦繪 三冊 南仙笑楚満人作 溪齋英泉画

紅粉小万 經師屋阿三 笠色之猪口暦手 六冊 柳亭種彦作 歌川豊國画

前世桂岸之悪 現世信濃屋半次郎 帯屋於蝶三世談 六冊 林屋正藏作 歌川國貞画

正本製八編 於染久松 狂言 六冊 柳亭種彦作 歌川國貞画

東都書物地本問丸 馬喰町貳丁目角 永壽堂 西村屋與八

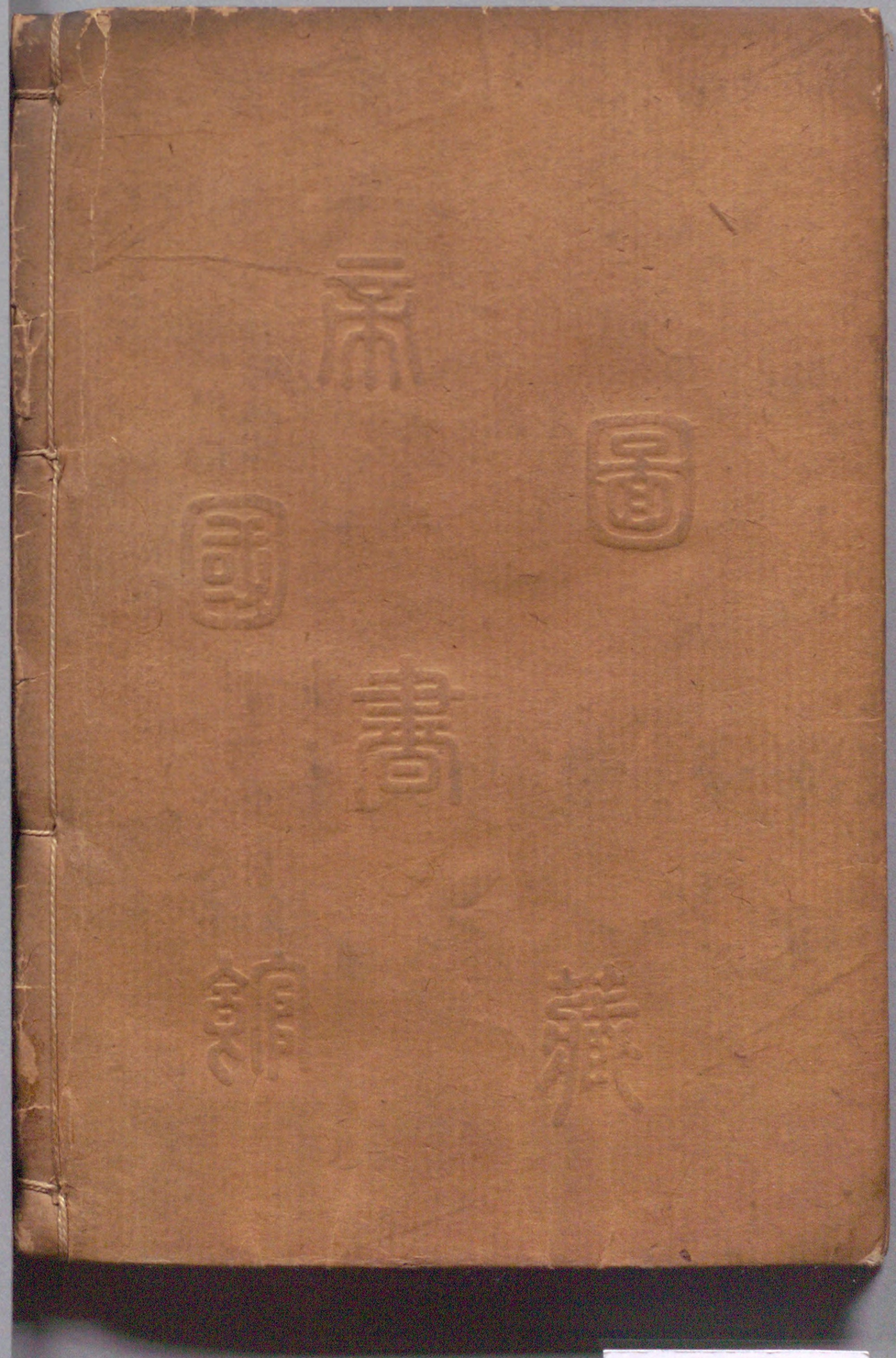
国立国会図書館 帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用

207
854

国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用



国立国会図書館　帯屋於蝶三世談 6巻 207-854

ガラス使用